

—松阪地域（本庁管内）の未来の姿—

地域の現状

松阪地域は、市総人口のおよそ7割を占め、本市の経済の中心を担う地域です。地域内は海岸部から山間部にわたって多様な自然環境を有し、多くの地域資源を保有しています。

かつては商工業を中心に発展してきましたが、現在では人口のドーナツ化現象とともに中心市街地も衰退してきているなかで、新しいまちづくりが求められています。

市民意識調査によると、市民の安全・安心と雇用に関する政策へのニーズは前回調査時から引き続いて高く、また中心市街地整備に関する政策へのニーズが高くなっています。

松阪地域を取り巻く社会経済環境は、松阪牛という全国ブランドを除けば、相対的に「中の上」「悪くもなく、とくに良いわけでもなく」というのが統計上の現状です。このことから、市民感覚としても「それなりの安心感」や「危機感の無さ」がうかがわれ、そのことが松阪地域全域の現況にもつながっているのではないかと考えられます。

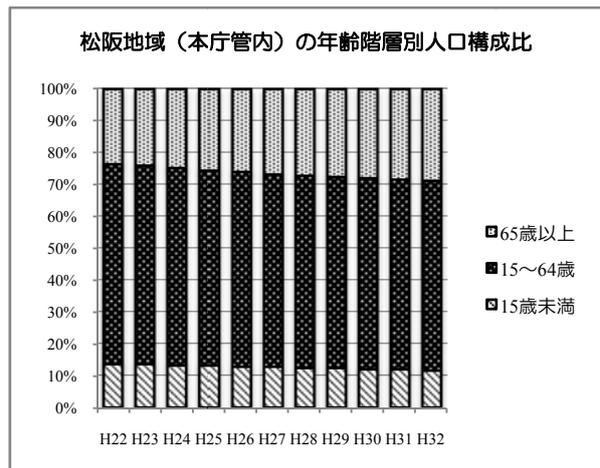
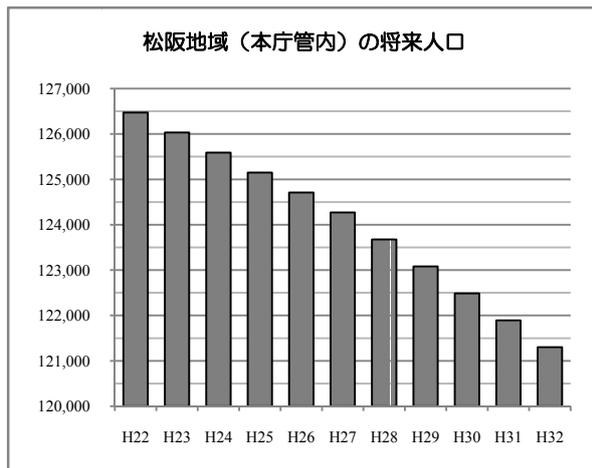
市民意識調査による松阪地域の市民ニーズ

| 優先順位 | 政策の項目 |
|------|----------------|
| 1 | 交通安全対策（3） |
| 2 | 雇用・勤労者対策（4） |
| 3 | 防災対策（2） |
| 4 | 防犯対策（1） |
| 5 | 市街地・拠点等の整備（17） |
| 6 | 商業の振興（18） |
| 7 | 公共交通の整備（9） |
| 8 | 保健・医療の推進（15） |

※重要度が高く、満足度が低い項目
（ ）内は前回調査時の順位

地域の課題

- 地域には歴史、文化、伝統、自然などにおいて活用できる地域の素材は多く存在しているものの、それらをまとめていくキーワードがありません。
- また、世代や性を超えて「このまちに住んで良かった、このまちに住み続けたい」という気持ちを起こさせるには、人々が持つ感性を大切にし、それをまちづくりにつなげることです。ただ「感性」であるがゆえに実体として見えにくいことから、たとえば市民カラーとして「色」で表したイメージ戦略などが必要です。



目指すべき未来の姿

高齢化が進展する地域において、高齢者が生きいきと暮らせるまち、これからの社会を支えていく若い世代が元気に暮らせるまち、さらには松阪地域を訪れる人々にとって魅力あるまちとしたときに、“おおきんな”と“すまんなあ”に象徴される「心」、そしてこれらを支える「命」を大切に作るまちづくりを目指します。

- 松阪地域を語るときには歴史や文化、伝統などの要素を抜きに語れません。これらを財産として保存するとともに、新たな価値を付加することが重要であり、地域の人々が共有感と誇りを持つことで「感動」を覚え、そのことで他者にも「感動」を伝え、来訪者もまた「感動」を味わうことができます。
- 命を大切に作る心を育み、その命を大切にすることが地域の体質イコール“土壌”となり、ここに住む人たちが「ここに住み続けたい」「このまちで最期を迎えたい」と思えるようになることが、「自分たちのまちだ」という愛情と誇りに結びつきます。市民の命を育むまちづくりを進めることは、どこのまちに住むかを考えるうえで重要なポイントになり、居住人口の増加につながるものと考えられます。

この地域にある豊かな自然や歴史、伝統に裏打ちされた地域資源の存在に感謝し、これらの存在を当たり前のように思うのではなく、これらのものに感謝して、実はその存在が当たり前ではないことを理解することが大切です。また守るのではなく新たな価値を付加して前へ進んでいく戦略が必要です。感謝、感動および感性の視点、すなわち「心」と「命」という視点を大切に、行政や市民などがそれぞれの役割を果たし、共通の利益を求めて取り組むことが望まれます。

—嬉野地域の未来の姿—

地域の現状

嬉野地域は、地域全体の人口は増加傾向にありますが、宅地開発が進む伊勢中川駅周辺では人口が増加している一方、中山間地域では少子高齢化による人口減少が進んでいます。

市民意識調査によると、市民の安全・安心と雇用に関する政策へのニーズは前回調査時から引き続いて高くなっています。また、福祉に関する政策が高まっています。

合併前の平成7年から旧嬉野町の施策としてソフト事業に力を注いできました。とくに、地域活性化「元氣おこし」事業では、多くの自治会が手作り作業によって景観づくりや地域交流活動を行うなど、それぞれが独自の文化や歴史を育むとともに、まちづくりへの気運が高まったといえます。

しかし、過疎・高齢化が進む宇気郷、中郷地区は中山間地域としての活性化事業が必要である一方、中川地区では人口増加にともなって新しいまちづくりが求められており、地区によってさまざまな課題が山積しています。

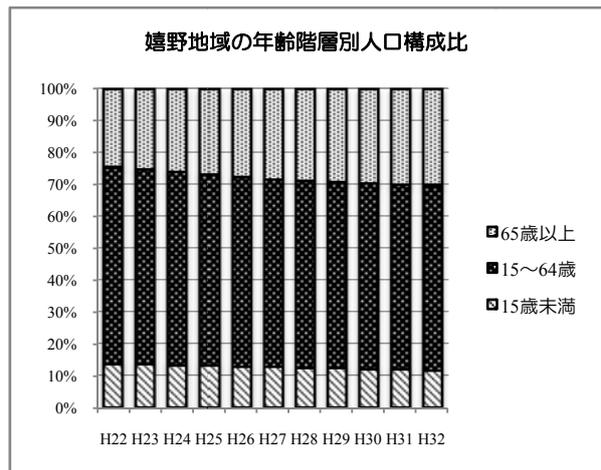
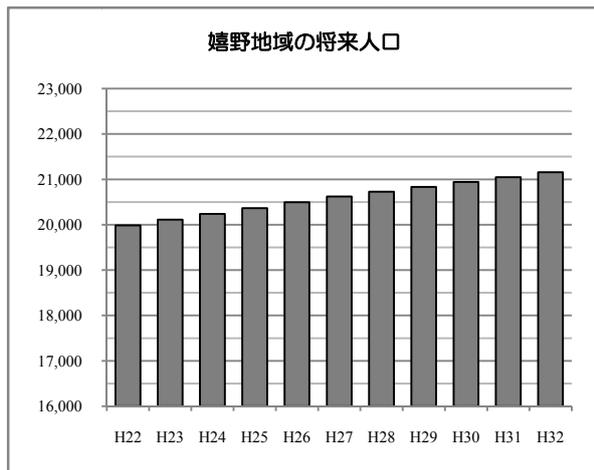
市民意識調査による嬉野地域の市民ニーズ

| 優先順位 | 政策の項目 |
|------|----------------|
| 1 | 防災対策（2） |
| 2 | 交通安全対策（3） |
| 3 | 雇用・勤労者対策（8） |
| 4 | 公共交通の整備（9） |
| 5 | 防犯対策（1） |
| 6 | バリアフリー社会の推進（6） |
| 7 | 障がい者福祉の推進（10） |
| 8 | 児童・家庭福祉の推進（14） |

※重要度が高く、満足度が低い項目
（ ）内は前回調査時の順位

地域の課題

- 新しく嬉野地域に居住した人が多い中川地区では、向こう隣の人は知らないという、人のつながりが弱く、また若い世代が多いので、「であい」と呼ばれる共同作業等にも参加が少ない状況です。
- 宇気郷、中郷地区では、高齢者世帯が多く、生活面や福祉面での支援が必要となっています。また、獣害がひどく、作物をつくる意欲さえ失われているので、対策が急務とされます。他の地区でも、若い世代の定住が課題であり、農業の後継者不足が懸念されます。
- 住民協議会の設立協議が進むなか、地域住民が主体的・自主的に取り組めるよう、また既設の協議会にはよりスムーズな運営が図られるように、住民一人ひとりの意識改革が必要となっています。



目指すべき未来の姿

清流中村川にふるさと感じ、郷土を良くしていくという共有した意識を持つことで、各地区の人や場所、モノ、祭り、文化など、点で存在していたものが一本の線となり、ぬくもりとつながりを感じるとともに、未来の子どもが自慢したくなる「ふるさと」づくりを目指します。

○ 地域ぐるみで子育て

好奇心や想像力を持った、大人になっても夢が語れる子どもを地域ぐるみで育て、ずっと地域を大切に育てる子どもを育てていきます。

○ それぞれの世代の居場所づくりと交流

それぞれの世代が集い、語りあう場所や、自由な意思によって活動できる場所をつくりまします。また、異種のグループなどをつなげ、地域の輪を広げるとともに、より効果的な活動に結びつけまします。

○ 地域のビジネスプランと交流

地域の資源を生かした地産製品の開発とブランド化を図り、協働意識とやりがいのあるまちづくりを目指まします。また、ボランティア活動の充実を図りまします。

○ 人材育成

自分たちの力で未来像に向かっていくリーダーを養成するとともに、若い世代が自主的に地域の行事やまちづくりに参加する仕組みづくりを進めまします。また、定年退職者などが持つ技術やノウハウを生かして、地域の自慢となる達人を育てまします。

—三雲地域の未来の姿—

地域の現状

三雲地域は、近年の宅地化にともなって、人口が急激に増加しています。とくに市内では唯一、子どもの人口が増加傾向にあります。核家族世帯の増加とともに、地域における子育ての環境やコミュニティの形成など、地域のまちづくりの状況は変化しています。

市民意識調査によると、公共交通の整備へのニーズが最も高く、市民の安全・安心に関する政策も高くなっています。また、健康や子育てに関する政策のニーズも高まっています。

地域内の平坦な農地では、イチジクをはじめ多様な作物が生産されており、また、海のアオサノリは高い評価を受けています。一方、宅地化による農地の減少が著しく、農地が持つ遊水機能の低下による浸水被害が懸念されています。

また、松浦武四郎や伊勢街道などの歴史・文化遺産の保全や、碧川や海岸等の自然環境といった地域の特性をもとにした住民活動の展開など、地域でできることは地域で計画し、提案、実行しようとする意識が高まりつつあります。

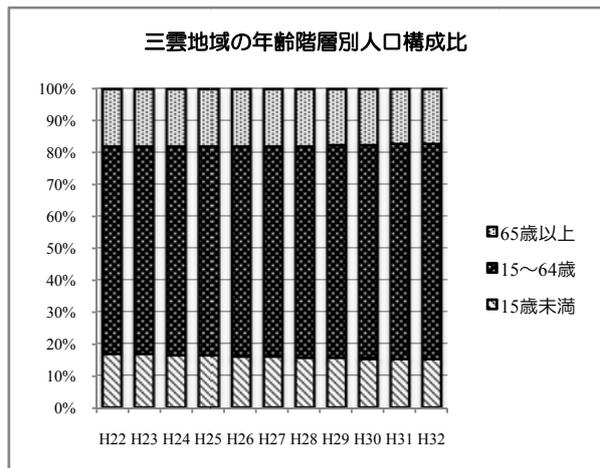
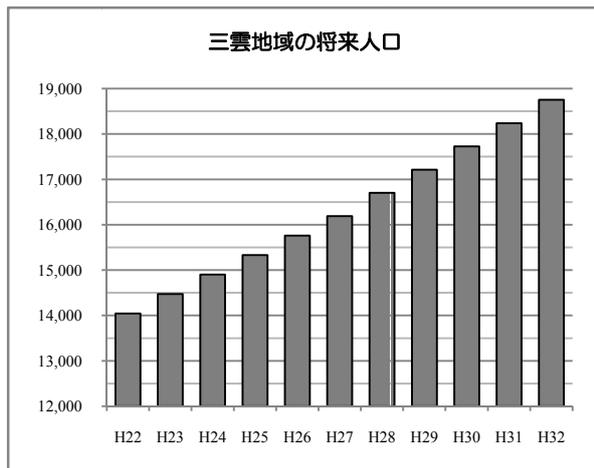
市民意識調査による三雲地域の市民ニーズ

| 優先順位 | 政策の項目 |
|------|----------------|
| 1 | 公共交通の整備（7） |
| 2 | 保健・医療の推進（11） |
| 3 | 防災対策（2） |
| 4 | 交通安全対策（4） |
| 5 | 防犯対策（3） |
| 6 | 雇用・勤労者対策（8） |
| 7 | 道路・港湾等の整備（10） |
| 8 | 児童・家庭福祉の推進（15） |

※重要度が高く、満足度が低い項目
（ ）内は前回調査時の順位

地域の課題

- 住民の自主的な活動による地域づくりを目指すには、住民に対する一層の支援が必要です。
- 幼稚園や学童保育など、さまざまな子育て支援や、子育てに関する情報を発信するとともに、地域社会全体で子どもを守り育てるための仕組みづくりが必要です。
- 地域住民との対話を通じて土地利用計画の形成を図るとともに、土地利用計画と連動した農地の保全や漁業環境の整備など、農水産業への支援が必要です。
- 公共交通が不足している状況にあるため、新たな地域公共交通を求める声が高まっています。



目指すべき未来の姿

地域の歴史や伝統、文化、環境など多様な地域資源や特性を活用して「住みたい、訪れたい」地域づくりを進めるとともに、「地域の誇り」が持てる一体感のあるまちづくりを目指します。また、地域住民の自発的な活動などと連携しながら、同時に住民ニーズの的確な把握に努めた地域づくりを進めます。

○ 農業・漁業の後継者支援

農業では、学校給食における地産地消を推進するとともに、遊休農地化の防止に向けた取り組みを通じて、後継者の確保を図ります。また漁業では、生産環境の整備を通じて後継者の育成を図るとともに、特産品のブランド化への支援を行います。

○ 住民協議会活動および地域内の子育て支援システムへの積極的な支援

住民の自主的な活動を促すとともに、地域全体で子どもを守り育てるための仕組みづくりを進め、地域の課題を地域住民が支えあいながら解決していけるよう目指します。

○ 個性豊かな地域づくりの推進

自然環境や文化財の保護と伊勢街道を保全し、「武四郎まつり」「碧川周辺における住民活動」など、地域の個性を生かした住民活動を支援します。

○ 都市計画区域の形成

地域住民の声を聞きながら都市計画区域の形成を図るとともに、地域の特性を生かした土地利用を進めます。

○ コミュニティバスシステムの構築

公共交通空白地域の住民と連携し、地域の実情に応じた地域公共交通の整備を行うことで、地域への人の流れを活発にし、地域経済や交流といった付加価値を与えることを目指します。

—飯南地域の未来の姿—

地域の現状

飯南地域は、87%を森林が占めている中山間地域であり、少子高齢化等によって過疎化が進んでいます。少子高齢化の進展や若者の都市部への流出により地域の活力の低下が顕著で、その傾向は年々大きくなっています。そのため、将来において、人と人とのつながりや地域における連帯感がますます希薄化し、地域コミュニティの中で醸成されるべき相互秩序の機能が十分働かなくなることが危惧されています。

また、基幹産業である林業や茶業は、従事者の高齢化や獣害等による生産性の低下が深刻化しています。

市民意識調査によると、少子化と働く世代の減少にともなって、雇用に関する政策へのニーズが依然として高い状況にあります。また、高齢化が進むなかで、公共交通や健康へのニーズも高まっています。

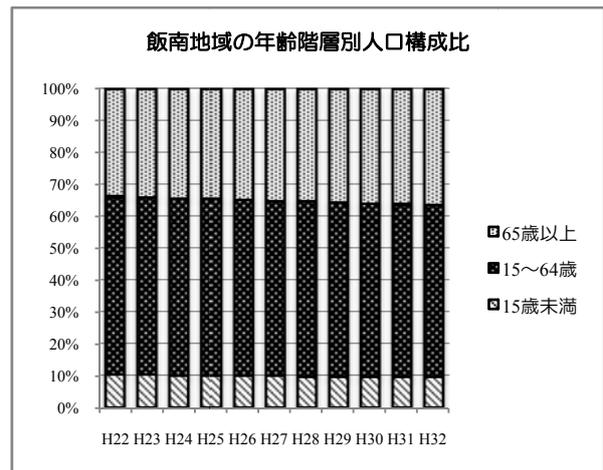
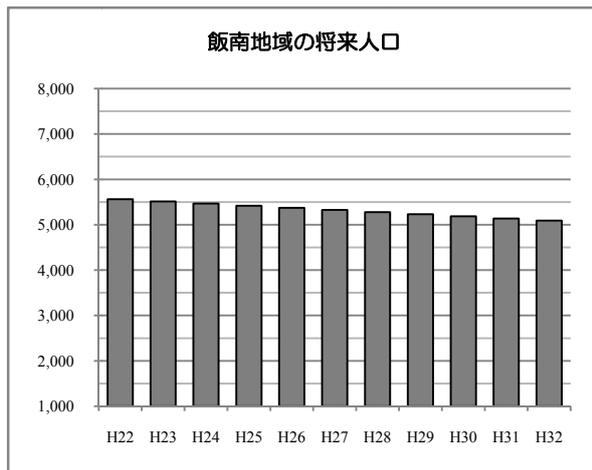
市民意識調査による飯南地域の市民ニーズ

| 優先順位 | 政策の項目 |
|------|----------------|
| 1 | 雇用・勤労者対策（1） |
| 2 | 公共交通の整備（5） |
| 3 | 保健・医療の推進（6） |
| 4 | 商業の振興（21） |
| 5 | 防災対策（3） |
| 6 | 交通安全対策（9） |
| 7 | 自然環境の保全（11） |
| 8 | 市街地・拠点等の整備（22） |

※重要度が高く、満足度が低い項目
（ ）内は前回調査時の順位

地域の課題

- 高齢者に対する支援、防災・防犯など住民生活に直結する問題については、住民が互いに協力し、助けあいながら、地域自らの手で解決していくことが求められていますが、その中心的役割を担うべき若者の都市部への流出を食い止めるとともに、地域外から若者を呼び込み、この地で定住できるような体制づくりが必要です。
- 農林業従事者の高齢化は耕作放棄地の増加や森林の荒廃へとつながり、また増加する獣害とあわせて、生産性の低下と従事者の減少が懸念されていることから、これらの課題への対応が必要です。



目指すべき未来の姿

住民生活に影響を与えるさまざまな課題への対策や配慮を行うため、担い手となる若者の定住を促進し、地域の活力を取り戻すとともに、恵まれた地域資源を活かし、その価値を高めることで雇用の創出につなげていき、「若者と高齢者が共存できるまちづくり」を目指します。

- 少子高齢化等による地域活力の低下を防ぐため、保育園から小・中・高校まで同じ地域で教育を受けられるという恵まれた環境を生かして、地域外から若者を呼び込み、この地で定住できるよう住宅整備等の体制づくりを進めるとともに、これらの教育施設と地域との連携を深め、地域の見守り・関わりの中で子どもを育て、地域の活性化へとつなげる互恵的な関係を築いていきます。
- 人口減少にともなって増加している空き家の有効活用を進めるため、住民協議会と協働して空き家情報の収集・提供等について検討し、若者定住住宅としての利活用を進めます。
- 高齢化により従事者の減少が続く農林業は、耕作放棄地の発生を防止するために鳥獣害対策を進めるとともに、生産基盤の整備を行い、安定した経営の推進を図ることによって若年従事者の確保を目指し、若者定住促進につなげていきます。
- 新たな雇用を創出し若者の定住を促進していくため、地域の素材を活かした特産物の振興により、農林業の生産性の向上と流通・消費拡大に取り組むことで、地域の活性化を目指します。

—飯高地域の未来の姿—

地域の現状

飯高地域は、市域の3分の1を占める広大な面積を有し、その95%が森林という典型的な中山間地域で、少子高齢化、産業構造の変化にともない、とくに林業、農業、建設業の衰退で地域社会の活力が極端に低下しています。

また、かつての台風による被害を教訓に、災害に強い安全なまちづくりを目指し、防災、治山治水事業、道路整備、情報の伝達施設等の整備に精力的に取り組んできましたが、まだ万全ではありません。福祉医療関係では、救急医療や高齢者等の交通手段の問題が深刻化しています。

先人が守ってきた森林は荒廃が進み、農地は後継者不足や獣害被害により、耕作放棄地が多々みられるようになってきました。ひいては、集落維持にも支障をきたし、消滅の危機にもなっています。

市民意識調査によると、少子化と働く世代の減少にともなって、雇用に関する政策へのニーズが依然として高い状況にあります。また、高齢化が進むなかで、公共交通や健康へのニーズも高まっています。

市民意識調査による飯高地域の市民ニーズ

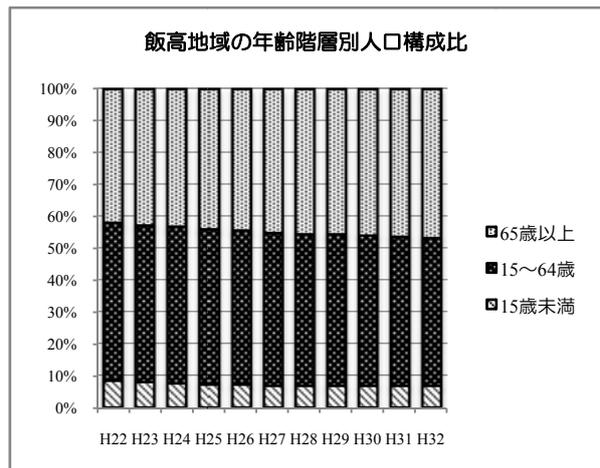
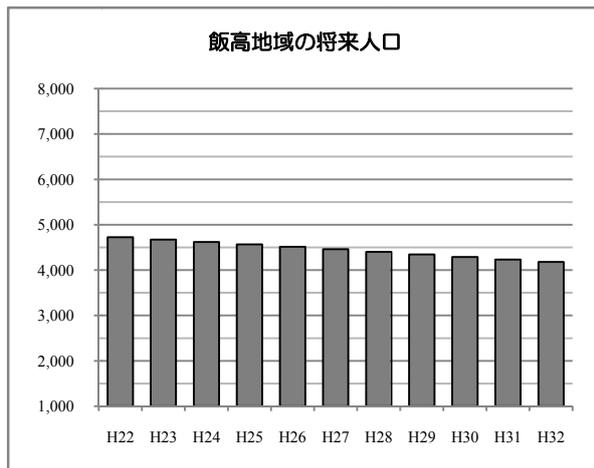
| 優先順位 | 政策の項目 |
|------|---------------|
| 1 | 雇用・勤労者対策（1） |
| 2 | 公共交通の整備（5） |
| 3 | 保健・医療の推進（6） |
| 4 | 商業の振興（21） |
| 5 | 高齢者福祉の推進（3） |
| 6 | 農林水産業の振興（9） |
| 7 | 障がい者福祉の推進（11） |
| 8 | 防災対策（22） |

※重要度が高く、満足度が低い項目
（ ）内は前回調査時の順位

地域の課題

○ 地域の魅力を生かし、生きいきと暮らしていくためには、住民協議会の充実、高齢者等の生きがいづくり、歴史・文化・豊かな自然等の次世代への継承等のため地域力の育成が必要であるとともに、地域資源の活用による地域振興と働く場の確保も必要です。

○ 健やかで安心して暮らせる地域を確立するために、生活基盤の整備が必要です。



目指すべき未来の姿

変わることのない広大な自然を背景に、今以上に手を携えながら山里を守っていくため、『自然と人の営みが調和し、いきいきと暮らせるまちづくり』を目指します。

住民がこれまで積み重ねてきた「地域の素晴らしさ」「地域のあたたかさ」を次世代へつなげていくとともに、飯高地域に住みたい、飯高地域に住んでよかったと実感できる地域づくりを進め、地域の声を政策に反映し、資源を活用した個性あるまちづくりを進めます。

○ 中山間地の魅力を生かした暮らしができる地域力の育成

中山間地の魅力を生かすため、住民協議会を通じた活動の充実と地域を担う人の育成、高齢者の生活支援と生きがいづくり、地域資源の次世代への伝承、地域の担い手となる若者の定住促進などを図り、地域が持つ地域力を向上させていきます。

○ 中山間地の特性を生かした働く場の確保

地域資源を活用した地域産業の活性化や観光の振興を行うとともに、それらを通じて働く場の確保を図ります。

○ 安全で安心して快適に暮らせる基盤づくりの推進

住民の安全・安心な生活を目指し、福祉や教育、公共交通などの生活基盤の整備を進めます。



松阪市の鳥 ウグイス

